

大学の世界展開力強化事業（平成24年度採択）中間評価結果

大学名	○神戸大学、大阪大学
整理番号	I-5
構想名	ASEAN 諸国との連携・協働による次世代医学・保健学グローバルリーダーの育成

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) A	これまでの取り組みを継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント)	
<p>本プログラムは、日本とタイ及びインドネシアの7大学が中心となってコンソーシアムを形成し、学部・修士・博士という様々なレベルでの交流を目指し、感染症対策を含む医学・保健学分野の諸問題解決に貢献する医師・教育研究者・高度医療専門職者・医療産業人の養成を目的としている。</p> <p>日本の大学院生を対象とした海外相手大学でのセミナーや日本・ASEAN 諸国の学生を対象とした学部課程における4週間の病院実習、修士・博士課程における3ヶ月又は6ヶ月の研究プログラムが用意されており、更にはダブルディグリープログラムの実施に向けた検討を進めるなど、目的とする人材育成に資する実質的な取組を行っている。</p> <p>コンソーシアムが形成され、参加7大学全ての学生が双方向遠隔授業システムを用いて神戸大学で提供する講義を受講できる体制が整備された点、派遣・受入ともに数値目標を超えて実施されている点など、着実に計画が進行していると判断できる。また、本プログラムによる派遣学生が平成26年度から本プログラムの運営に関わる助教として採用されている点は評価できる。</p> <p>参加学生の選抜については、書類・面接・TOEFL・学業成績・GPAなどで評価する客観的で透明性の高い手法が採用され、募集要項・選抜過程・留学成果についてもホームページで公表し、透明性を保っている。また、成績管理については、コンソーシアム運営委員会においてカリキュラムの質・水準、単位の認定基準、成績基準を協議し、更に相互のチェックにより質の担保を図っている。</p> <p>開発国・中開発国・開発途上国の医療分野において、各国の観点から7大学が相互にリーダーを育成することは大きな意義があり、これまで学生交流が困難とされてきた医学部において、学部学生も含めた交流に取り組んでいる点は評価できる。</p> <p>アジア諸地域における交流や研究教育に係る多様な企画のサポートを行う「神戸大学国際交流推進機構アジア総合学術センター」や、プログラムの運営等に関わる「グローバルリーダー育成センター」などの設置、他資金の導入による学生交流の維持・拡大は高く評価でき、本プログラムの事業目的の達成に向けて、実現可能性を高めている。</p>	